

プロスポーツ オールガールズクラシック 号外版

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE



世界の佐藤水菜が中心

ゴールデンウィーク真っ只中に行なわれるダービーに先んじて、25年のオールガールズクラシックG1戦第一弾となるオールガールズクラシックが岐阜競輪場にて4月25日に3日間シリーズの幕を開ける。24年2月〜25年1月の選考期間における賞金獲得額上位者42名によって争われる一戦は、昨年から不参加だったパリ五輪組や24期勢も加わってより熾烈さを増す。前回の久留米開催では地元エースの児玉碧衣が重圧をはねのけてVを果たしたが、今回はどんなドラマが待っているか。頂上決戦を制して年末のグランプリ出場権を最初に手にするのは果たして？



佐藤水菜

する一戦の本命は佐藤水菜だ。今年は1月立川しか走ってなく、約3カ月ぶりの実戦がいきなりG1となるが、これまでの数々の実績から佐藤に関しては心配無用だろう。走ってなかった期間はナショナルチームの一員として活動。3月にトルコで行われたネーションズカップではケイリンで銅メダル、スプリント予選ではハロンで10秒170という日本記録を更新するというタイムを叩き出しており、まだまだ進化は続く。レベルアップが著しいガールズにあってもスピ

ドは凶抜けている。包囲網を敷かれようが主役は佐藤。先行でもまくりでもタイムリートを逃さず仕掛けられるかだけが勝敗の分かれ目だろう。グランプリでの先行策で頂点を狙えるまでに成長した姿をアピールしたのが坂口楓華だ。結果は4着も佐藤を叩いて出てゴール寸前まで粘り込む走りは見事だった。今年に入ってからも26戦で25勝、3着1回と圧倒的なパワーを発揮している。勢いのまま力を出し切る走りができれば好勝負は必至だ。

今年はずで11場所走って7V。類稀れなタフネスぶりでガールズ戦線をけん引しているのが久米詩だ。長い距離を踏むこともいとわれない自力勝負が基本だが、展開に応じて幅広くレースを組み立てられる柔軟性が持ち合わせていて、大レースでも勝負強さを発揮している。組み立てがハマればゴール勝負を演じられる。そして、昨年ナショナルチームを卒業した太田りゆと梅川楓子。G1を勝ってグランプリ出場が当面の目標と明確になった2人の全力の走りは見ものだ。ポテンシャルの高さは言わずもがなで、



久米詩

太田はデビューしてから競走経験の少なさを一戦ごとに埋めていって好結果を残しているし、梅川は怪我明けからスタートした今年6場所走って一度も負けていない。ともにガールズでは凶抜けた快速レーサー。競輪に専念するようになって結果が出てくる条件は整ってきている。

デイフェンディングチャンピオンの児玉碧衣に、尾方真生、小林優香の久留米ガールズもV争いに加わってくるデキだ。中でも注目はやはり児玉だろう。普通開催ではさすがにモノが違うが、モチベーションが上がり切らないままではビッグレースとなると厳しい局面もありそう。ここに照準を合わせて不安のない状態で迎えられるか。グランプリ女王の石井寛子、今年8場所V4、寛子V3回の小林莉子、昨年G1覇者の石井貴子（千葉）、今年24戦で21回最終バックを奪いV3、準V3回と元気いっぱいな奥井迪、スピードの上がるビッグレースで真価を発揮する吉川美穂らもV戦線を賑わす。



坂口楓華

主力メンバー

選手名	登録地	期別	競走得点	期別	競走得点	期別	競走得点	期別	競走得点	期別	競走得点
尾方真生	福岡	108期	57.04	108期	56.88	108期	57.04	108期	56.75	108期	57.08
児玉碧衣	福岡	108期	56.75	108期	56.18	108期	56.75	108期	56.84	108期	56.85
坂口楓華	岐阜	112期	57.08	112期	56.84	112期	57.08	112期	56.60	112期	57.33
久米詩	福岡	116期	56.85	116期	59.81	116期	56.85	116期	57.20	116期	57.33
佐藤水菜	神奈川	114期	57.33	114期	57.20	114期	57.33	114期	56.68	114期	56.68
梅川楓子	福岡	112期	57.33	112期	57.20	112期	57.33	112期	56.68	112期	56.68
太田りゆ	福岡	112期	56.68	112期	57.81	112期	56.68	112期	56.68	112期	56.68

第3回オールガールズクラシック 出場予定選手 ※2025年04月13日現在

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点
オールガールズクラシック					L級B									
L1	小林莉子	東京	102期	56.08	L1	青木美保	埼玉	118期	53.48	L1	佐藤友香	青森	110期	45.50
L1	加瀬加奈子	新潟	102期	51.28	L1	杉浦菜留	愛知	118期	51.33	L1	宮地寧々	岐阜	110期	49.96
L1	石井貴子	東京	104期	51.86	L1	當銘沙恵美	愛知	118期	52.26	L1	大久保花梨	福岡	112期	56.00
L1	石井寛子	東京	104期	55.92	L1	永禮美瑠	愛知	118期	53.67	L1	橋本佳耶	熊本	114期	48.82
L1	山原さくら	山口	104期	56.25	L1	増田夕華	岐阜	118期	53.17	L1	森内愛香	大阪	118期	44.67
L1	高橋梨香	埼玉	106期	55.08	L1	下条未悠	富山	118期	53.56	L1	國村美留莉	山口	118期	46.91
L1	奥井迪	東京	106期	56.25	L1	尾方真生	福岡	118期	57.04	L1	刈込奈那	千葉	120期	46.20
L1	石井貴子	千葉	106期	56.37	L1	西島叶子	熊本	118期	53.03	L1	西脇美唯奈	愛知	120期	52.78
L1	小林優香	福岡	106期	56.22	L1	飯田風音	埼玉	120期	54.52	L1	河内桜雪	群馬	122期	52.42
L1	細田愛未	埼玉	108期	54.44	L1	太田瑛美	三重	120期	53.72	L1	安東莉奈	大分	122期	50.39
L1	尾崎睦	神奈川	108期	55.56	L1	吉川美穂	和歌山	120期	56.00	L1	枝光美奈	福岡	124期	50.27
L1	児玉碧衣	福岡	108期	56.75	L1	熊谷芽織	岩手	124期	54.00	L1	中島瞳	埼玉	126期	51.68
L1	黒河内由実	長野	110期	51.42	L1	宇野紅音	岐阜	124期	53.24	L1	大浦彩瑛	神奈川	126期	54.00
L1	鈴木奈央	静岡	110期	55.00	L1	竹野百香	三重	124期	55.80	L1	田野口佳奈	香川	126期	44.00
L1	中野咲	愛知	110期	52.40	L級A					L1	中川諒子	熊本	102期	46.33
L1	太田りゆ	埼玉	112期	56.68	L1	荒牧聖未	栃木	102期	56.86	L1	藤原亜衣里	新潟	102期	46.44
L1	梅川楓子	東京	112期	57.33	L1	渡辺ゆかり	山梨	102期	45.64	L1	奈良岡彩子	神奈川	104期	43.67
L1	吉村早耶香	静岡	112期	53.17	L1	猪頭香緒里	岡山	104期	45.59	L1	荒川ひかり	茨城	110期	50.63
L1	太田美穂	三重	112期	54.22	L1	藤巻里佳	福島	110期	46.05	L1	林真奈美	福岡	110期	51.09
L1	坂口楓華	愛知	112期	57.08	L1	南円佳	熊本	116期	51.67	L1	比嘉真梨代	沖縄	114期	49.92
L1	佐藤水菜	神奈川	114期	57.33	L1	本多優	福岡	120期	45.56	L1	伊藤のぞみ	北海道	116期	47.47
L1	當銘直美	愛知	114期	55.83	L1	島山ひすい	神奈川	122期	51.84	L1	高木佑真	神奈川	116期	51.76
L1	柳原真緒	福井	114期	55.67	L1	萩原瑞生	群馬	122期	45.15	L1	布居光	和歌山	118期	47.00
L1	日野未来	奈良	114期	55.39	L1	野寺楓	静岡	122期	50.10	L1	東美月	兵庫	124期	50.71
L1	渡口まりあ	山口	114期	51.06	L1	又多風緑	石川	122期	52.03	L1	平子結菜	三重	126期	49.89
L1	那須萌美	宮崎	114期	56.00	L1	藤原春陽	徳島	122期	51.70	L1	仲澤春香	福井	126期	57.75
L1	久米詩	静岡	116期	56.85	L1	伊藤優里	三重	126期	50.58	L1	磯村光舞	山口	126期	51.56
L1	吉岡詩織	広島	116期	52.94	L1	小林諒	京都	126期	45.08	L1	豊田美香	徳島	126期	52.82
L1					L1	高木萌那	福岡	126期	49.90					

※これは競走メンバーです

※2025年04月13日時点

最近12場所成績



當銘 直美 (愛知/114期)

パールカップで1①⑤着と驚かせると、GK F 21③着、女子王座戦2②⑥着と昨年はビッグでブレーク。ペースになるタテ脚を磨いてきた成果で近況も良好。G1なら位置取りを重視した柔軟な立ち回りで上位を目指す。



竹野 百香 (三重/124期)

124期在所1位。積極先行で売り出すも、攻め幅を広げて勝つ競走を意識するようになったのが昨年V5、今年V3という成果を生んだ。初のG1で散々だった昨年のパールカップとは別人のような走りに期待。



熊谷 芽緯 (岩手/124期)

昨年の優秀新人賞を受賞した期待のホープ。その先行力はフレッシュクイーンで仲澤春を押さえて逃げ切ったほどだ。当所は冬季移動先でバンクの特徴は把握している。持ち味の積極策で旋風を巻き起こすか。



GIRLS KEIRIN L級 ガールズ A.B.C



荒牧 聖未 [栃木・102期]

誘導妨害のペナルティーの影響でビッグ戦線から離れている荒牧聖未だが、7月の復帰後は猛烈な勢いで地歩を回復している。スキのない立ち回りからのまくり、差して20戦して10Vの戦績は文句の付けようがない。G1戦の方に出ていてもV争いを演じたであろうデキで、ライバルたちを一蹴する。
又多風録、畠山ひすいは勝負所を逃さない仕掛けで荒牧を揺さぶりたい。又多は自分のレースに自信を深めて、最近の決まり手以上に積極的に動いている。畠山は神奈川に移籍して2戦目となるだけにアピールしたい。安定感ある走りはできていて、どこまで粘り込めるか。
しづとい藤原春陽、長欠明けから勝負になっている南門佳も流れに乗れば。

ガールズA展望

充実一途の荒牧聖未から



大浦 彩瑛 [神奈川・126期]

1年3カ月の長欠から8月に復帰し、即V争いの中心選手として活躍している大久保花梨が実績的には上位。ここも狙いすましたまくりで決着を付ける可能性は十分だが、2月に落車し、4月伊東では珍しく未勝利に終わるなど動きがやや重かった。
そこで本命に推すのが大浦彩瑛だ。ゴールデンカップを獲得し、T教場で鍛えられた養成所時代から将来を嘱望されてきた精鋭の才能がいよいよ開花した。石井寛、日野未を最後方からのまくりで倒して初Vを遂げた3月岐阜が過ぎ過ぎでなかった事はその後の連続の走りで証明している。快速まくり、カマシが炸裂するか。
位置取り確かな河内桜雪、一発ある西脇美唯奈、総力戦で臨む中島瞳も連候補。

ガールズB展望

勢いある大浦彩瑛に期待



仲澤 春香 [福井・126期]

規格外の仲澤春香が断然の本命だ。デビューから快進撃を見せていて、グランプリ級のトップ選手を次々破って優勝を重ねてきたこれまでの活躍は周知の通り。G1本戦でこそ見たかった選手だ。ナショナルチームメンバーとしての活動も本格的に始まり、ガールズを走る機会は減ってきているのでより一戦一戦が見逃せない。好機にスパイトして主導権を奪ったら強靱な踏み直して粘り込むいつもの走り魅せてくれよう。
対するは同期の豊田美香だが、直前の落車は気掛かりで評価は割り引いた方が良さそう。期待したいのは自力自在な走りを確立させた高木佑真で、上位相手でも臆せず攻めの走りができている。切れ味ある磯村光舞や復調なら林真奈美も注目だ。

ガールズC展望

レベルが違う仲澤春香!!